

令和3年度新潟県内3国立大学法人工事入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	令和 3年11月 5日（金） 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」	
委員	委員長 小田 茂達（公認会計士） 委員 平山 桂子（新潟県建築士会新潟支部相談役） 委員 山田 寿（弁護士） ※委員1名が都合により欠席	
審議対象期間	令和2年7月1日～令和3年6月30日	
抽出案件（合計）	5件	（備考） 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
建設工事（小計）	4件	
一般競争入札 （政府調達に関する協定適用対象工事）	0件	
一般競争入札（上記工事を除く）	3件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務（小計）	1件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	1件	
標準型プロポーザル方式	0件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申または勧告の内容	なし	

意見・質問	回 答
<p>議事に先立ち、資料確認、新潟大学施設管理部長の挨拶のあと、委員の紹介</p> <p>・委員会実施要項第5条により、委員互選で小田委員に委員長をお願いしている旨の説明。</p> <p>新潟大学監査室より、田代監事が委員会に陪席されている旨の案内。</p> <p>建設工事及び設計・コンサルティング業務の審議対象工事案件について</p> <p>「新潟県内3国立大学法人において令和2年7月1日から令和3年6月30日に契約した建設工事及び設計コンサルティング業務の審議対象工事案件について、各法人の入札、契約ごとに説明、報告。」</p> <p>・特になし</p> <p>審議対象工事案件における抽出について</p> <p>「審議対象工事案件における抽出方法及び抽出案件5件について説明」</p> <p>・特になし</p>	

<p>抽出案件の審議</p> <p>「①新潟大学（旭町）学術資料展示館改修実施設計業務」</p> <p>・「技術提案書の提出を求める者を選定する為の資格審査方法」について、2者から参加表明書提出があり、うち1者は要件を満たさなかったとのことだが、これは参加表明を受けてから判明するものなのか。公募の段階できちんと説明すれば要件を満たさない1者については参加表明を行わなかったのではないか。</p> <p>参加表明を受けて審査をしなければ分からないものなのか。</p> <p>・配置予定技術者の同種又は類似業務の実績がなく欠格通知をだしたということだが、応募側からすると、どういう業績が必要であるかは入札説明書を読めば分かるということか 大学側の説明が不十分だったのでは。</p> <p>・「技術提案書を特定するための評価方法・採点」について、ボーダーラインのような基準を設けていたか。</p>	<p>・公募の段階で、最低限の基準として、「技術提案書の提出を求める者を選定するための基準」を示している。</p> <p>要件を満たすか否かについては、提出された資料を基に審査をしなければ分からないもの。</p> <p>・必要な条件については入札説明書（詳細は添付の技術提案書作成要領）で説明している。</p> <p>今回は対象建物が文化財ということで、文化財登録された建造物の改修設計業務の実績を求めた。</p> <p>・ボーダーラインは設けず最高値の者に決定するのが通常だが、今回は技術提案が1者からのみという状況であり、比較対象がないことから、補足資料として過去3年間の簡易公募型プロポーザル方式の採点結果と参考比較し、採点合計点の妥当性を確認した。</p>
--	--

<p>「②新潟大学（達者）佐渡自然共生科学センター臨海実験所研究棟他改修電気設備工事」</p> <p>・総合評価の結果表（別紙 3-2）の評価項目で、①企業の技術力の「企業の施工能力と配置予定技術者の能力」の工事成績で「0点」となっているが、これはどういう理由か。</p> <p>・入札に参加された 2 社の電気工事における等級は何になるか</p> <p>「③新潟大学（達者）佐渡自然共生科学センター臨海実験所研究棟他改修機械設備工事【再度入札公告】」</p> <p>・本件は、再度入札公告ということだが、初回の公告時は 2 社の参加申請があったということか。</p> <p>・再度入札公告の参加者は、初回の公告時の参加者とどのような関係か。</p> <p>・参加者が少ないということで質問だが、1 社入札は去年も結構多かった。金額が大きいものもあった。予定価格ベースでは金額が大きいもので 1 社入札はなかったが、本審議案件工事が、なぜ 1 社しか来ないのか疑問がある。 業界全体の状況なのか、この工事だからこの特殊性があつての事なのか、一般的な</p>	<p>・別紙 3-2 の公示成績欄に、各社が実績として申請してきた「発注者名・工事件名」の記載があるが、今回の発注者（佐渡市）は、採点の対象となる「工事成績相互利用登録発注機関」ではないため。 対象となるのは主に中央官庁とその所管機関。</p> <p>・別紙 4 に記載があるが、2 社とも「電気工事・特-B」である。</p> <p>・そのとおり。</p> <p>・同じ業者。</p> <p>・本学は、1 年間の工事の予定を公表している。そういうことを提示しているので、大学としては業者に事前に情報提供はしている状況である。 本審議案件については、離島である佐渡という特殊性から、佐渡に本社がある、又は営業所がある業者となる。 機械関係の業者は 15 社ぐらいあり、公告</p>
--	---

<p>状況としてあるのか、というのと、どうして本件は1社しか来なかったのか教えてほしい。</p> <p>・再度公告を行っても予定価格超過となっているが、予定価格は変わっているか。</p> <p>・初回公告時に、協議をしたが折り合わなかったということだったが、協議のやり方はどの様に行うのか。</p>	<p>前に10社程度に電話をかけて、できるだけ参加をしてほしい旨の連絡はしている。</p> <p>配置予定技術者がいないというのが大きい理由と思われる。</p> <p>初回公告時は、技術者の資格条件を「1級管工事施工管理技士」のみとして2社しか参加申請がなかった為、再公告時は「1級または2級」と資格要件を緩和もしている。</p> <p>大きな工事なので事前に情報提供もしているが、本件の場合は地理的な特殊性がある。</p> <p>例えば新潟市から出向く必要がある業者だと宿泊代などの費用が嵩むため敬遠される等の理由もあるが、今回1社入札になった大きな原因は技術者の不足だと考えている。</p> <p>・変更しています。</p> <p>一度入札に付しているのので、再公告のときは図面を書き直し、内訳を変えている。同じ予定価格でもう一度、ということはない。</p> <p>・業者は入札の際に積算内訳書を提出するので、まず大学とどこが折り合っていないのかを確認する。</p> <p>今回は、再公告時は機械設備工事の取り壊しを別発注にして、内訳を変えた。変更した内訳書と業者内訳書を比較して、例えば新潟にある会社だから、新潟から行くので宿泊代が高いとか、まとめて行けば少し安くなるか、とか、業者の見積もりの中で落とせるところはないか、という点を押さえてから、業者に相談をしていく。</p>
---	---

<p>「④長岡技術科学大学（上富岡町）ライフライン再生（消雪設備）工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争参加資格確認申請書の提出後に辞退した業者と、本審議案件で随意契約を締結した業者は別か。 また、辞退の理由は何か。 ・土壌調査を実施したとのことだが、新規の調査か。 以前との比較の場合も調査の対象となるか。 ・工期が1シーズンずれたとのことだが、大学に影響はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別の業者である。辞退の理由は、技術者が確保できないという事であった。 ・本学のキャンパス全体について、土壌汚染対策法上の土壌汚染調査が必要であるとの指定を受けている。指定された当時の調査位置と、本工事とは違う箇所であった。 キャンパス全体をまとめて調査をした場合、調査時期と工事実施時期との間で汚染が発生する可能性があるため、行政の指導により、工事の直前に工事を実施する各々の箇所について調査をすることとされている。 ・幸い、支障は無かった。工事が完成して今年の冬が最初のシーズンなので、上手く機能することを願っている。
<p>「⑤上越教育大学 特別支援教育実践研究センター等便所改修工事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低基準価格について、予定価格との一番大きな差はどういうところか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接工事費、落札業者は 89.8%、平均 85.7%であった。極端に離れているところはなかったが、どこの業者も共通費が抑えられていた。落札業者の共通比率は直接工事費に対して 14%、1 位と最下位では離れていた。雪のシーズンに当たっているので諸経費がかかるのではないかと思われるが、ここで各社とも大きく下げてきていて、差もあったという状況。

<p>・ こういう工事だと低価格になる、というような傾向はあるか。</p> <p>・ 全社とも予定価格以下である。皆さんの意欲があったということもあったとは思いますが。そんなに差が出ないような工事なのに。</p> <p>・ 資料 1-2 の一覧表で、今回の工事が低価格、上越の他の案件を見ると、落札率が非常に低いように見える。全部で 18 件、60% 台の落札が 7 件、70% 台が 4 件、6 割ぐらいがそんな感じ。長岡技大は 60-70 が 23%、新潟大学は 38%。上越が圧倒的に多い。どうしてか。地域的な特性なのか、価格の査定は同じ基準でやっていて、新潟、長岡と違うというわけではないのであれば、こんなに低価格の割合が多いのに対し、何か思い当たることはないか。</p>	<p>・ 平成 30 年に便所改修工事をしたが、当時入札参加は 3 社、予定価格内に入ったのが 1 社だった。その業者は共通費がそんなに安いということではなかった。今回はどの業者も軒並み共通費が低い。今回コロナなどの影響もあるのかもしれない。設計事務所から見積書の掛け率をヒアリングしたが、共通費率が低いことも考慮して価格査定をしなくてはならない。</p> <p>・ コロナの影響もあるのかもしれない。</p> <p>・ 去年に比べてれば、たしかにおっしゃられるとおり。 低入札価格の調査をした際、職人も抱えているので、何としても取りたいというご意見もあり、また大学での実績作りがしたいので、という声も聞こえた。工事費のところはなかなか差がつきづらいので、共通費のところ目いっぱい頑張っていると思われる。今後、少し気にしながら見ていかなくてはならないと思っている。 そもそも件数が多いわけではないので、これからも、実績を積みながら、適切な積算ができるように、と考えてはいる。また、上越地域の大型工事が少なく、新幹線工事が終わったということもあるのかな、という感じもある。職人を育てていくというところで大学の仕事を取って、という意欲があるようだ。</p>
--	--

その他

「再苦情処理の申し立て状況等」

- ・ 特になし

講評事項

- ・ 特に指摘事項なし

・ 会議の中で出たことだが、上越地区で低入札の案件がある、今後の動向を踏まえながらなんですが、仮にこれが続くようであれば、査定について検討していただきたい。

・ 「Ⅰ期、Ⅱ期」のような計画的・継続的発注の工事で、年度をまたいでやっている場合で、もしそれが抽出案件となった場合には、関連工事を比較して確認させてもらいたいので、資料として前回の落札状況を用意していただきたい。

・ もう少し早めに資料を送っていただきたい。